



# 資料編

# 1. 多摩市を取り巻く環境

## (1) 位置・面積

多摩市は、都心から約 30～35km 圏の東京都西部に位置し、北は多摩川を境に府中市、東は稲城市、南は神奈川県川崎市と町田市、西は八王子市と日野市に接しています。市域面積は、

位 置	面 積
東経 139 度 27 分 北緯 35 度 38 分	21.08 km <sup>2</sup>

注) 位置は市役所本庁舎位置



## (2) 地 形

多摩市の地形は、丘陵地、段丘面、低地、人工改変地、宅地造成地等で構成されています。

標高は天王森公園付近が海拔 160m 前後で最も高く、多摩川沿いの低地が約 50m 程度と最も低くなっています。

### 1) 丘陵地

丘頂・丘腹斜面は、都立桜ヶ丘公園を含む連光寺周辺、貝取緑地周辺、からきだの道周辺に分布しています。

丘陵地内の谷底低地は、多摩川及び大栗川、乞田川沿いに分布しています。

### 2) 段 丘

段丘は大栗川・乞田川沿いに分布しています。

### 3) 低地の地形

自然堤防は、多摩川の所々に細長く点在するように分布しています。

後背湿地は、多摩川沿いの関戸から一宮にかけて分布しています。

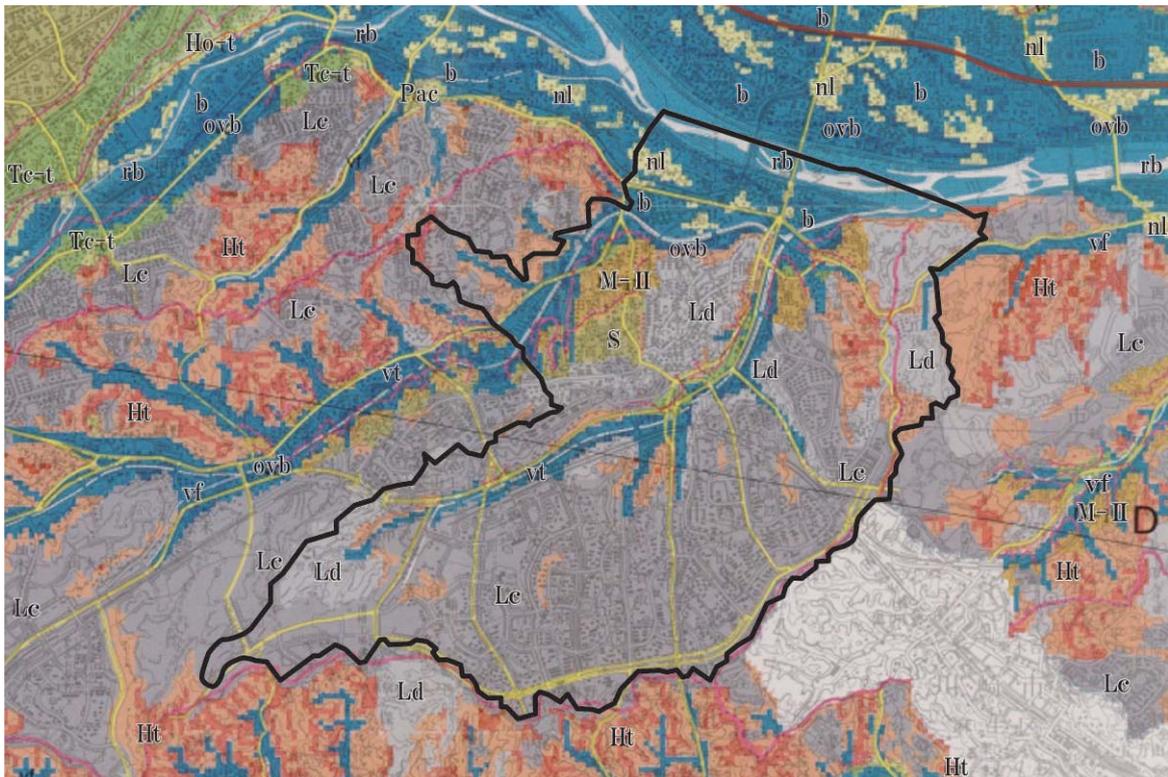
旧河道は、大栗川下流にまとまって見られます。

河川敷は、多摩川の高水敷にあたります。

### 4) 人工改変地の地形

大規模な人工改変地は、ゴルフ場が広い面積を占めています。

1960年代後半に始まった大規模な宅地造成地は、市の面積の約6割と最も広い面積を占めています。



多摩市地形図（出典：土地分類基本調査 八王子・藤沢・上野原 1995年版 / 東京都）

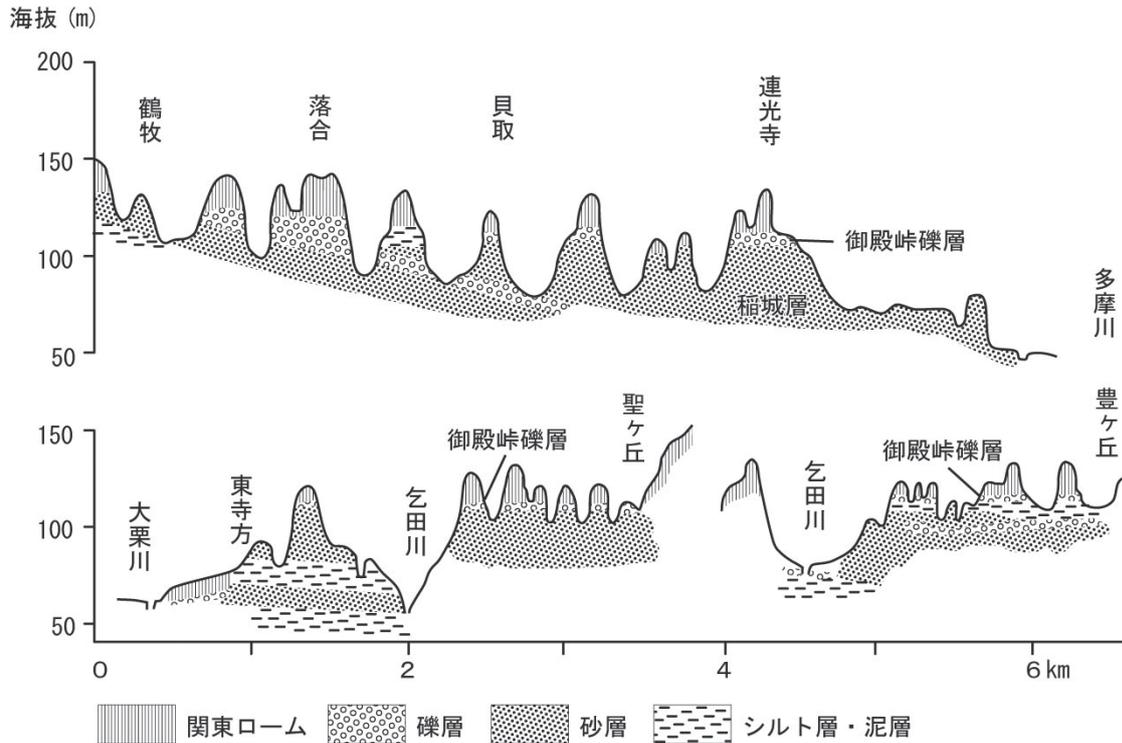
### (3) 地質

多摩市の地質の基盤となっているのは、氷河時代に浅海に堆積した礫・砂・泥の互層です。

その上部を、古相模川によって運ばれた砂礫が堆積してできた地層が覆っています。

地表面は、いわゆる関東ローム層となっています。この関東ローム層は赤土とも呼ばれ、箱根火山や富士火山などの噴出物が偏西風によって運ばれて堆積したものです。

大栗川や乞田川沿いには、関東ローム層からなる河成段丘が数段みられます。また、これらの小河川沿いは、沖積低地となっており、柔らかい砂礫泥などから構成されています。

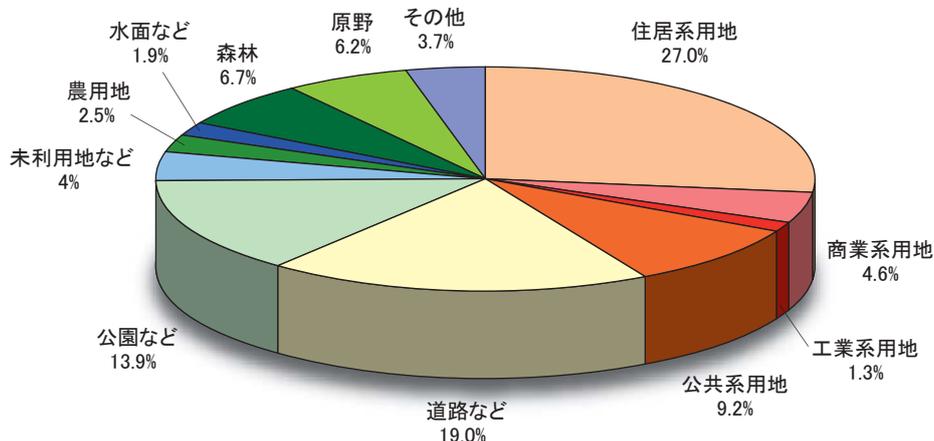


地質断面図（出典：多摩市の自然（地学・植物目録・動物）/多摩市）

### (4) 土地利用

平成 21 年度の土地利用現況調査によると、市域では住宅系、商業系、工業系公共系を合わせた宅地が 42.0%、道路などが 19.0%、公園など 13.9%、そして森林は 6.7%となっています。

市内の市立公園緑地は 205 ヶ所、市民一人当たりの公園面積は 13.54㎡(平成 23 年 4 月 1 日現在)です。



土地利用構成比（出典：土地利用現況調査報告書 - H 21（多摩市））

## (5) 気 象

多摩市は関東平野の南西端にあって、南は多摩丘陵、北は多摩川にはさまれているという地理的条件にあり、関口武氏による日本の気候区分の中で、東日本型の東海・関東型気候区に位置しています。

また、多摩市の気象についての観測点は多摩市役所にあり、東京都心部（基準地点：千代田区大手町東京管区气象台）からは約 30km ほど西にあたります。

### 1) 気 温

過去 7 年間（2004 年～ 2010 年）の平均気温は 15.4℃で、東京都心部と比べると、1.3℃ほど低くなっています。

過去 7 年間（2004～2010 年）の月別気温と降水量（出典：統計たま平成 22 年版、気象庁 HP）

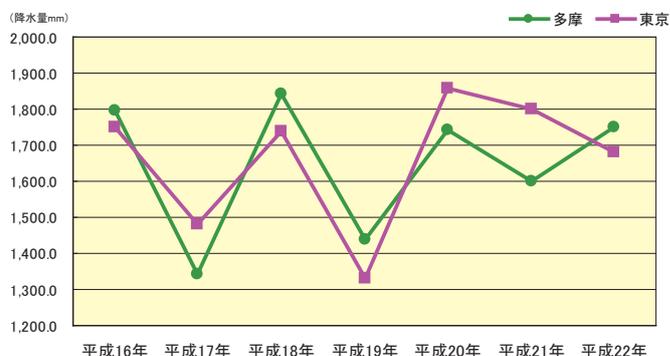
多 摩 市	気 温 (°C)			降水量 (mm)	東 京	気 温 (°C)			降水量 (mm)
	平均	最高	最低			平均	最高	最低	
平成 16 年	15.0	37.2	-3.7	1,796.0	平成 16 年	17.3	39.5	0.2	1,750.0
平成 17 年	14.8	37.8	-4.7	1,344.0	平成 17 年	16.2	36.2	-0.8	1,482.0
平成 18 年	15.1	38.0	-4.7	1,844.0	平成 18 年	16.4	36.1	-1.5	1,740.0
平成 19 年	15.9	39.5	-2.3	1,439.0	平成 19 年	17.0	37.5	0.2	1,332.0
平成 20 年	16.0	37.9	-3.7	1,742.5	平成 20 年	16.4	35.3	-0.1	1,857.5
平成 21 年	15.8	35.6	-3.5	1,599.5	平成 21 年	16.7	34.2	0.0	1,801.5
平成 22 年	15.4	38.4	-3.0	1,750.5	平成 22 年	16.9	37.2	-0.4	1,679.5



過去 7 年間（2004～2010 年）平均気温の変化（出典：統計たま平成 22 年版、気象庁 HP）

### 2) 降水量

年間の降水量は 1,300mm から 1,900mm 程を推移しており、東京都心部ともほぼ同じ量の降水量となっています。



過去 7 年間（2004～2010 年）年間降水量の変化（出典：統計たま平成 22 年版、気象庁 HP）

## (6) 人口

多摩市の人口は平成 24 年 1 月 1 日時点で 146,524 人で、東京都全体の約 1.1%、東京都の市部の人口の約 3.5%の人口となっています。

### 1) 人口の増減

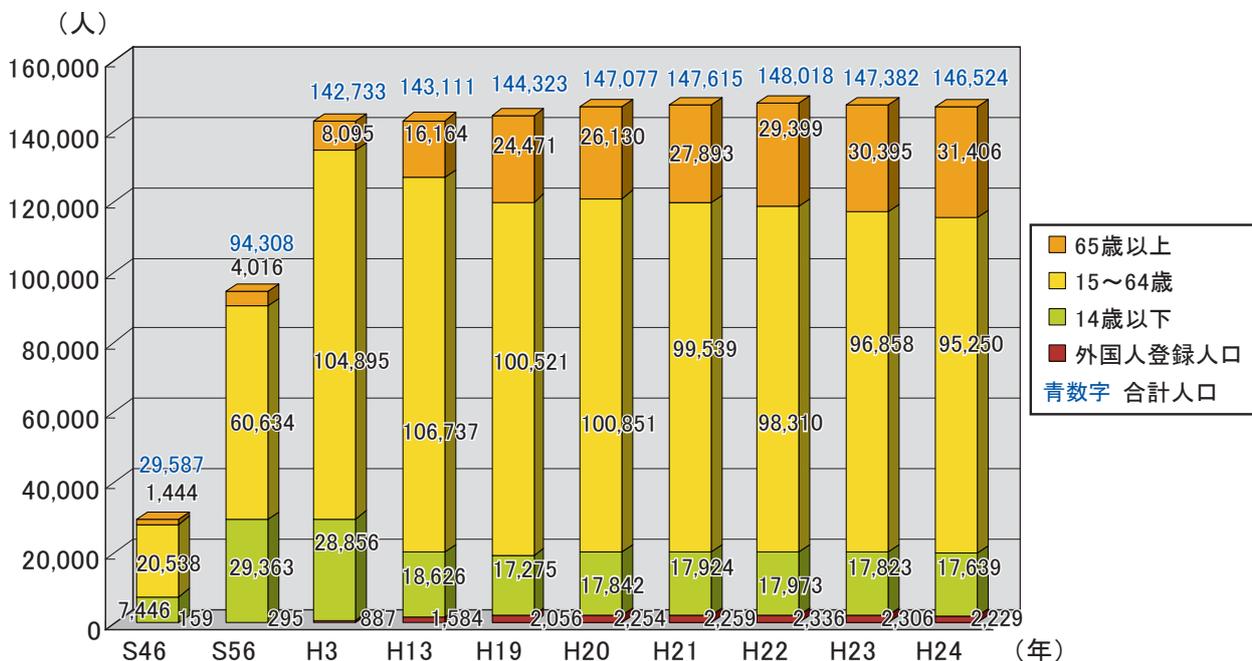
人口は、多摩ニュータウンの開発に伴い増加しました。特に諏訪・永山地区に第一次入居が開始された昭和 46 年 3 月より急増し、昭和 46 年の人口の 29,587 人から、昭和 56 年には約 3.2 倍の 94,308 人、平成 3 年には約 4.8 倍の 142,733 人となりました。その後、微減微増を経て、現在に至っています。

### 2) 人口比率

人口構成は平成 24 年 1 月 1 日時点で、14 歳以下が 17,639 人、15～64 歳が 95,250 人、65 歳以上が 31,406 人となっています。

このうち市民全体に対する 14 歳以下の割合は、昭和 56 年に 3 割を超えていたもののその後減少し、平成 19 年以降は 12%前後で推移しています。15～64 歳と 65 歳以上の割合を比較すると、15～64 歳の割合が減少するのに対し、65 歳以上の割合が増加しており、国や東京都と比較して急激な高齢化傾向が伺えます。

また、平成 24 年 1 月 1 日時点の外国人登録人口は 2,229 人で、全体の約 1.5%を占め、平成 22 年の 2,336 人をピークに近年はわずかながら減少傾向となっています。

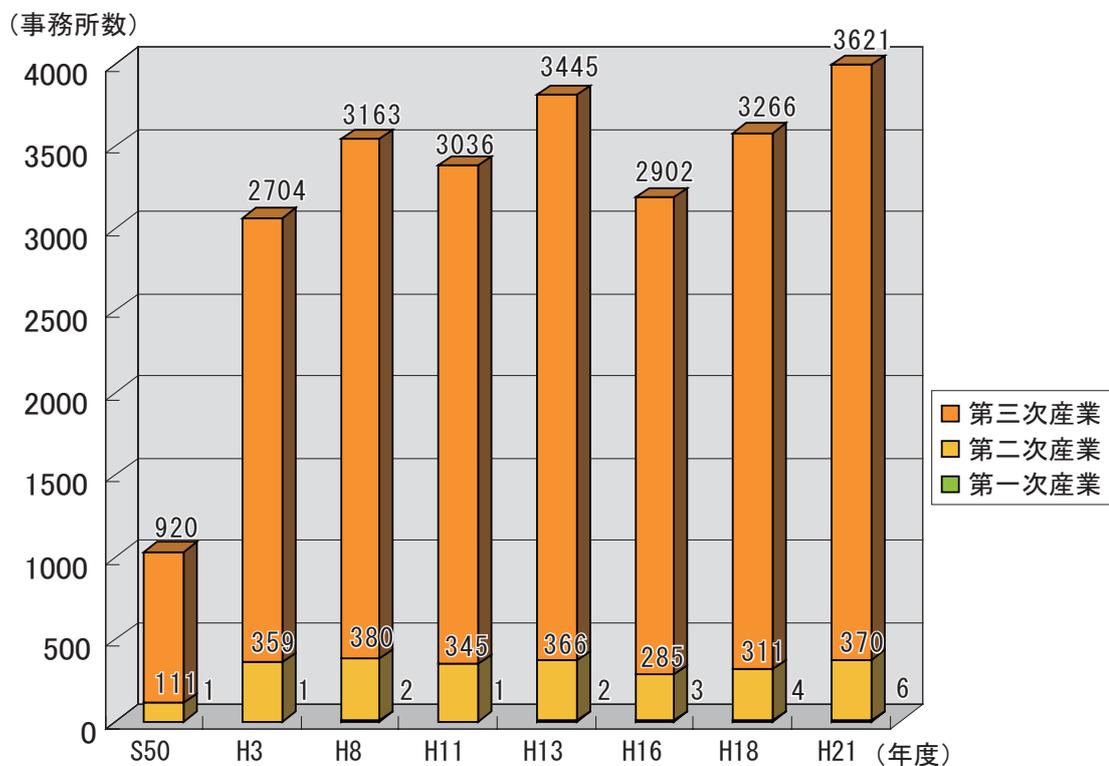


多摩市の人口推移グラフ（出典：東京都の統計、各年 1 月 1 日現在 / 東京都、平成 22 年度環境報告書 / 多摩市）

## (7) 産 業

多摩市の産業構造は、第二次産業と第三次産業がほぼ1対9の割合で、第三次産業が大半を占めています。

そのほとんどは、飲食等のサービス業や小売業等が大半を占めており、増加傾向にあります。



産業構成の推移グラフ（出典：統計たま 平成22年度版を加工）

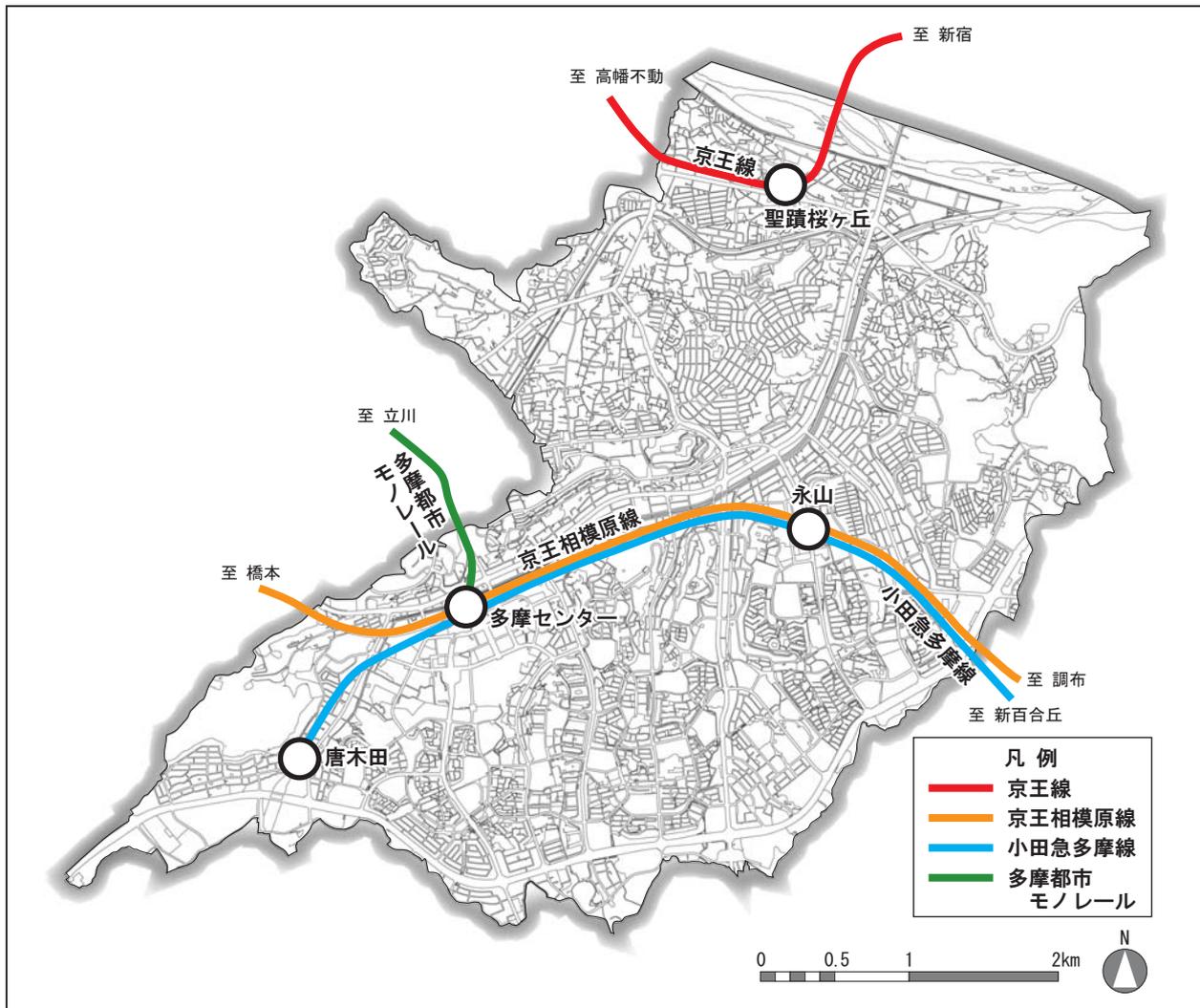
注）グラフ横の数値は第一次産業の事務所数

## (8) 交通

### 1) 鉄道

鉄道は、ニュータウンを中心とする南部に京王電鉄と小田急電鉄の2社、市北部に京王電鉄、合計3路線6駅が整備されており、それぞれ都心方面と結ばれています。

また、多摩都市モノレールが、上北台駅（東大和市）から多摩センター駅まで多摩地域の南北をつないでいます。

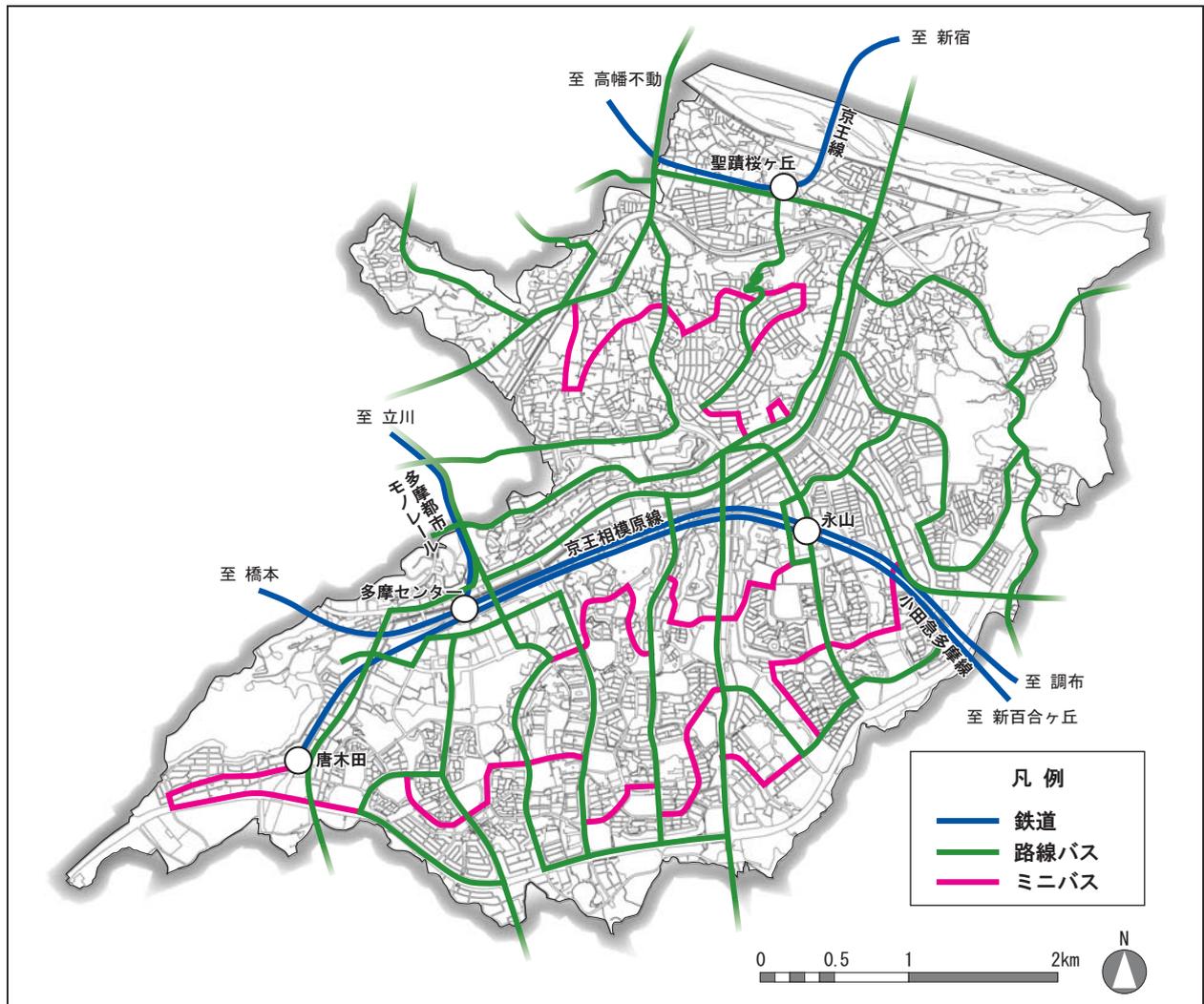


鉄道網図

## 2) バス

バスは、京王電鉄と神奈川中央交通の2社が運行しており、主に市内の各地域と鉄道駅を結んでいます。

また、多摩市ミニバスは、平成9年11月に東西線・南北線の2路線の運行を開始し、多くの皆さんが、買い物や通院、市役所、総合福祉センター・アクアブルー多摩などの公共施設の便利に利用できるよう運行しています。

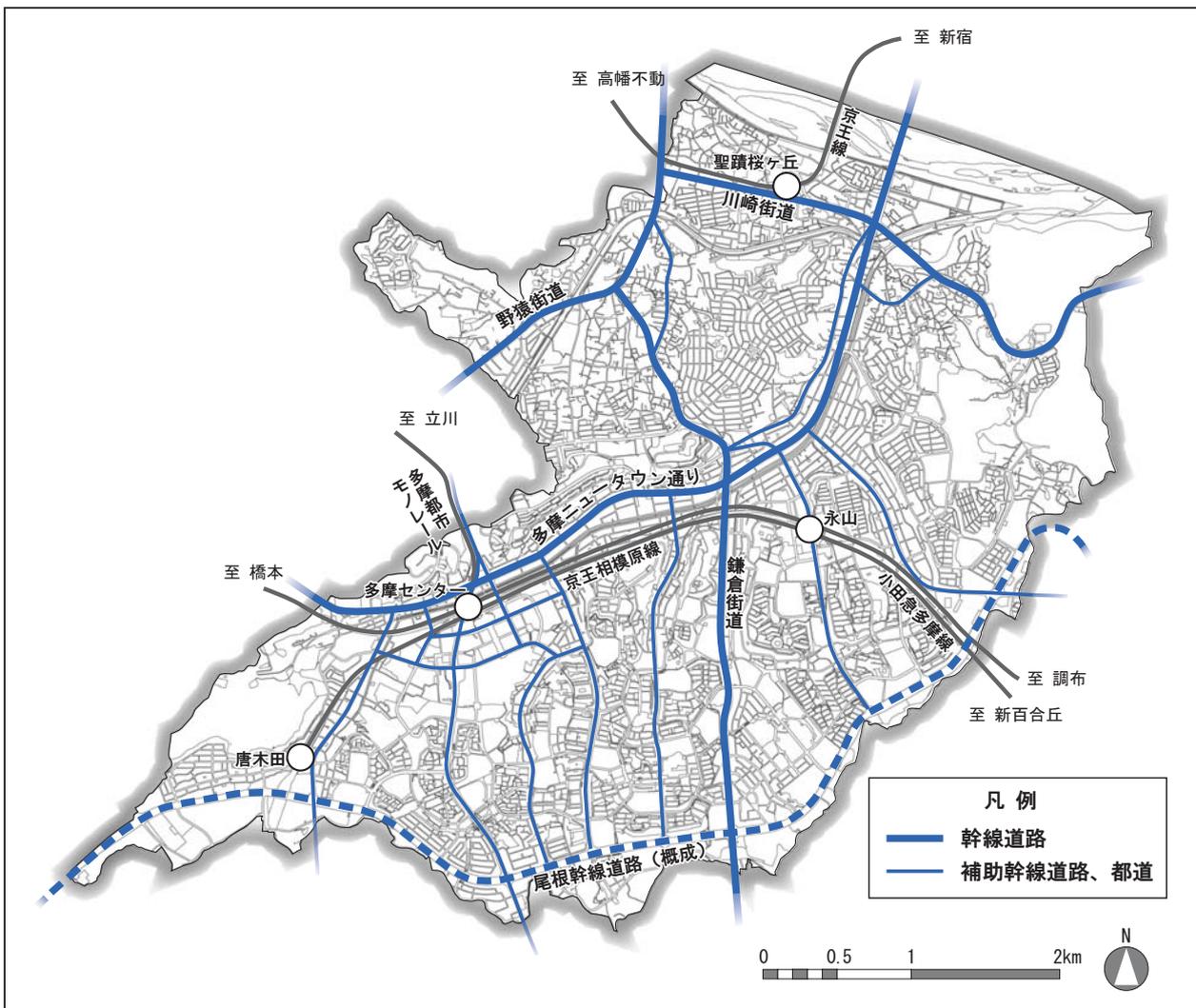


バス路線図

### 3) 道 路

多摩市は、多摩ニュータウン事業により、計画的な街づくりを進めてきたことから、歩車道分離を原則として道路等の都市基盤整備が行われ、道路整備率は都内 26 市の中でも上位に位置し、安全な都市構造となっています。また、多摩ニュータウン地域以外の既成市街地においては、ニュータウン地域との都市基盤の均衡を図り、調和のとれた生活環境を実現するため、「多摩市既存地区道路整備計画」により、安全な都市環境の向上を目指し整備を進めてきている状況にあります。

市内には、川崎街道、野猿街道、鎌倉街道、多摩ニュータウン通り、尾根幹線道路といった主要幹線道路が通っており、都市計画道路の大部分は完成しています。生活道路である一般市道についても、順次整備が図られています。



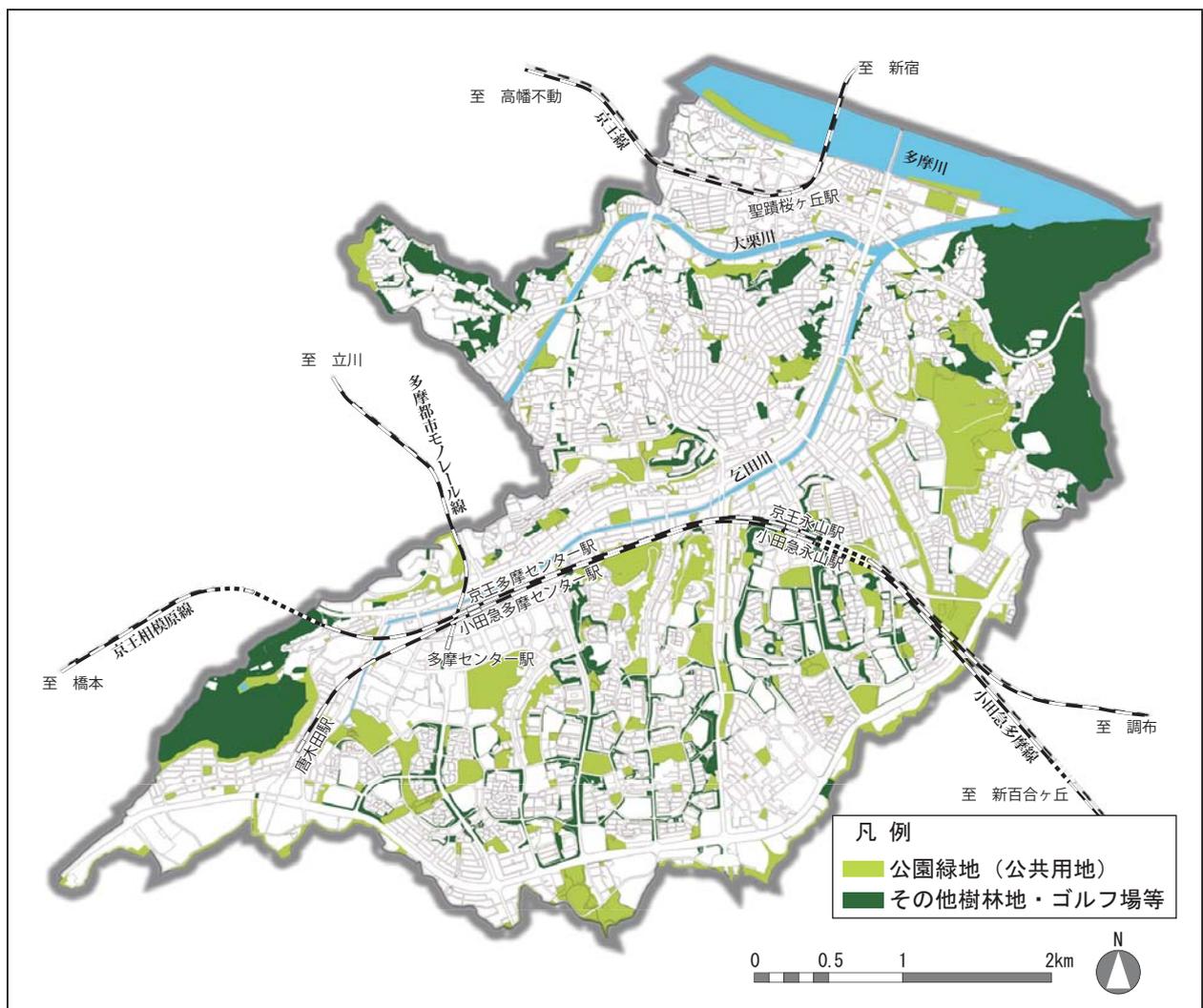
道路路線図（出典：多摩市道路整備計画、平成 18 年 3 月 / 多摩市を元に作成）

## (9) 公園緑地

多摩市は、市域の約59%を多摩ニュータウン区域が占め、計画的に「住区面積の30%以上」のみどりを確保してきました。近年、住棟間や法面のみどりの二次開発（駐車場化）による減少や樹木の密生化、植生管理、施設のリニューアルなどが課題となっています。

東京都では、みどりの量を把握するため、従来の緑被率に河川等の水面の占める割合と公園内の樹林で覆われていない面積の割合を加えた「みどり率」により、量的把握を行っています。そのため、今後、本市においても同様にみどり率による計測を行っていきます。

多摩市のみどり率は53.9%（1135.9ha）と市全域の半分以上を占めています。内訳は、公園以外の樹林地の占める割合が最も多く24.9%（525.2ha）となり、次いで公園の占める割合が15.4%（324.4ha）、公園以外の草草が占める割合が10.6%（222.6ha）となっています。



公園緑地等位置図（出典：平成20年度都市計画基礎調査 公園緑地統括図、平成21年3月 / 多摩市を元に作成）